会　議　録

会　議　名	平成２９年度第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　務　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開　催　日　時	平成２９年７月２６日（火）１８時３０分～１９時３０分		
開　催　場　所	市立はけの森美術館　多目的講義室		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 上原佐世子委員 川﨑京子委員 小林正隆委員 鈴木遵矢委員		
事　務　局　員	学芸顧問　　薩摩雅登 コミュニティ文化課文化推進係　　吉川、永井 　同　　はけの森美術館学芸員　　鈴木、中村		
傍　聴　の　可　否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会　議　次　第	（１）展覧会「南方より伊東深水から一市川市所蔵『南方風俗スケッチ』観覧 （２）事業実施報告等 （３）意見交換等 （４）その他　次回日程調整等		
会　議　結　果	別紙のとおり		
会　議　要　旨	別紙のとおり		
提　出　資　料	（１）開催した展覧会・ワークシップ等及び今後の予定 （２）平成２９年度年間スケジュール		

平成２９年度　第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２９年７月２６日（水）

【鉄矢会長】　　それでは、平成２９年度第２回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会したいと思います。

皆様、こんにちは。本日はご多忙の中、お集まりいただき、まことにありがとうございます。

次第の１の展覧会の観覧につきましては、既に皆様、ごらんいただいたかと思いますので、次の議題に進ませていただきたいと思います。

配付資料の確認をします。事務局のほうからお願いできますでしょうか。

【事務局】　　そうしましたら、配付資料の確認をさせていただきます。

まず１枚目が次第です。次に「開催した展覧会・ワークショップ等」と書かれました資料１。続いて「２９年度年間スケジュール」と書かれたものが資料２になります。

最後に、第１回運営協議会会議録の校正依頼となっております。

そのほか、お手元に、今回の展覧会のチラシのほうも配付しておりますので、ご確認いただければと思います。

資料については以上です。

【鉄矢会長】　　あと、これですね。はけの森。

【事務局】　　カフェのご案内も置かせていただきました。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

それでは、次第の２、事業実施報告等の（１）開催した展覧会・ワークショップ等について、事務局から説明をお願いいたします。

【中村学芸員】　　では、まず、開催した展覧会から報告させていただきます。

資料の１の一番最初のところをごらんください。所蔵作品展が前年度からの開催となっておりましたけれども、３月２５日から５月１４日までの会期で行われておりまして、無事に終了いたしました。「さまざまな道程－寄贈作品に見る中村研一の姿」と題し、これは寄贈作品を中心にした展示という形で行いまして、最終的な観覧者数としては、大人の方が９０７人、子どもの来館者が１２４人になりました。

関連企画としては、ギャラリートークを４月２２日と５月１３日に行いました。既に１

回目のほうは、前回のときに報告させていただきましたけれども、２回目のギャラリートークについて改めて報告させていただきます。５月１３日に行われまして、参加者が１１人ということで、１回目のギャラリートークはちょっと雨が降っていた中だったので、参加者の数も伸び悩んだのですけれども、それに比べると、１１人ということで２桁に入るくらいの方に参加をいただきました。

続けて、関連して教育普及事業のほうも報告させていただきますけれども、鑑賞教室もあわせて５月９日にこちらの所蔵作品展内で行われておりまして、市内の南小学校が来館しました。

ということで、開催した展覧会・ワークショップ等についての報告は以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。何か質問、ご意見等ありましたらお願いします。

では、引き続いてでよろしいでしょうか。（２）今後開催予定の展覧会・ワークショップ等について、事務局から説明をお願いします。

【中村学芸員】　　続きまして、今後開催予定の展覧会ですけれども、こちらは、先ほどごらんいただきました「南方より、伊東深水から－市川市所蔵　「南方風俗スケッチ」」と題しました展覧会が７月２８日から、間もなく開催です。市川市のほうで所蔵している伊東深水が描いた「南方風俗スケッチ」という、１９４３年に描かれたスケッチが２７０点ほどあるんですけれども、そこから３８点の作品をお借りしまして、プラス当館のほうで前年度に寄贈いただいた伊東深水作品の中から一部を出して、計４１点を１階の展示室で展示します。展示内容は、今日、見ていただいたとおりですけれども、あとは展示期間中には冊子を用意して販売する予定です。でき上がり次第、お送りしてごらんいただければというふうに思います。

こちらの企画展に関しましては、関連イベントがございまして、２ページに記載がございます。まず、イベントというか、これは会期を通してのものになるんですけれども、当館は、もともと雨の日にかなり来館者が伸び悩むというところがありまして、雨の日に来ていただいたお客さんでも、駅から距離があって歩いているうちにぬれてしまったとか、そういうような意見をいただくことがありましたので、今回、そちらの対策というか、雨の日にせっかく来てくれた方に対して何らかの、こちらのほうからありがとうという気持ちを伝えるようなことができないかということで、雨の日に来てくれた先着５名の方に当館のオリジナルグッズをプレゼントするという企画を考えています。

２つ目はギャラリートークで、今回は８月５日と９月２日の２回、行う予定でいます。

３つ目に、今回、レクチャー＆テイスティング　あの頃、あの場所のお茶というようなタイトルをつけておりますけれども、基本的にはトークなどを行うイベントを開催する予定です。８月２６日に開催する予定で、今、ちょうど申し込みを受けつけている最中ですけれども、愛国製茶というお茶の製造販売を行っている会社がありまして、こちらが１９４１年に創立した会社であって、戦時下の中で設立した会社だから、その時代の風潮にちなんで愛国という名前をつけたという会社だということで、今回展示する南方風俗スケッチとすごく近い時期に設立されています。その当時、お茶というものが特に統制が強まっていく中でどういうような形で販売されていたのかというような話を、こちらの会社の社長さんにしてもらおうということで、企画いたしました。あわせて、国内の状況から、戦争の時代を見ていくという趣旨なんですけれども、戦争の話だけというのだと少し味気ないので､せっかくなのでこのお茶を実際に参加者の方にも味わってもらったりするような、少しそういう実践も交えた企画にしたいと思っています。

次回の企画展に関しては以上になります。

その次の企画展に関しましては、鈴木のほうからご案内させていただきます。

【鈴木学芸員】　　続きまして、鈴木が説明させていただきますけれども、１１月から１２月の中旬にかけて、児島善三郎の展覧会を企画しています。児島善三郎が国分寺で制作した時期の作品、戦争を挟んで戦前と戦後ですけれども、そのときに描いた風景の作品を中心に展示をする予定でおります。今、作品の最終的な選定をしていまして、またイベント等も、ギャラリートークはもちろん行いますけれども、ほかにも創作ワークショップなど案を検討しているところですので、決まり次第、内容の詳細につきましてはお知らせする形になります。

また、その後ですけれども、教育普及事業がその後ありまして、９月から始まりますけれども、伊東深水の展覧会から児島善三郎の展覧会にかけて、東小学校から第二小学校まで、残り８つの小学校に鑑賞教室で来ていただいて、作品を楽しく見ていただいたり、お話などをみんなでする形になるように考えております。

今後の事業等につきましては以上になります。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。

資料２の横のスケジュールを一緒に並行して見ていただくと、７月から９月までが今回の伊東深水のものがあって、その下に教育普及があって、次のページを見ますと、児島善

三郎展が１１月、１２月のところにあって、１１月に３校、１２月に３校という予定となっている、ここにあります。

何かご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

上原委員。

【上原委員】　今の説明の中で、資料１なんですけれども、助成：平成２９年度文化振興費補助金「文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業」ですか。これ、どういう意味でしょうか。

【事務局】　文化庁の補助金の名称なので、文化庁が決めたものですので、その前の年の平成２８年度にも同じ助成金をもらっているんですが、タイトルが変わりまして、小金井市は、芸術文化の条例と計画を持っているんですけれども、その条例と計画にのっとって、芸術文化を進めていくところに対して助成金が出ますよというものなんですね。ですので、プラットフォームがついたことによって、自治体の中でそういうことを発信できるような土台づくりをしていきなさいというような要素が今度加わりましたので、それで名称が変わったんだと思います。文化庁の助成、しょっちゅう名称が変わるんですね。これで平成２６年から実はもう４回変わっているんですよ。文化庁としての意図はあるとは思いますけれども、あまりその助成の内容に関しては変わっていないというところですね。ですので、平成２８年にもらった助成とほぼほぼ内容は同じです。それをもう少し何というんでしょうかね、土台づくりをきちんとしろということと、あと、地域の企業とかそういうところとも連携してやりなさいというようなことが、今回要素の中に入ってきています。それで名前が変わっていて、多分、オリンピックとかパラリンピックのことも想定に入れたようなことをやれということなのかなというふうにはちょっと思っていますけれども、一応、地元の企業とも連携していくようなことを、特に美術館は関係ないんですけれども、助成の申請の全体としてはその辺のところを考えてエントリーした結果、とれましたということですね。

【上原委員】　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　どのぐらいの割合って見たらいいのですか。これだけでは絶対展示できないという話ですよね。

【事務局】　これがないと、展示自体はできるんですけれど、広報ができないんです。これ、要するに、新聞広告であるとか、雑誌の広告、インターネットの広告、あとＪＲの駅張り広告をもうちょっと期間を延ばすみたいなものが、すべてこの費用から出している

ので、これがないと、今、東京新聞に何回か出してもらっているんですけれど、あと雑誌に今度、Hanako ムックに載せてもらうんですけれども、その予算も確保できていないので、ほとんど広報費に助成金のお金は使っています。

【鉄矢会長】　　わかりました。ありがとうございます。

ほかにご意見はありますでしょうか。

【山村委員】　　ご意見というか……。

【鉄矢会長】　　感想、はい。

【山村委員】　　非常によくできた展示で感心しました。伊東深水のスケッチ、なかなかすばらしいと思いましたし、解説とか年表とか地図とか分かりやすくて、よかったです。つい最近、東京国立近代美術館の常設を見て、川端龍子のパラオとかヤップ島だとか、その辺を描いたスケッチが今、展示されていて比較できます。川端龍子より伊東深水のほうがうまいのは確かです。１９３４年ぐらいのものですね。また、東京国立近代美術館では、もっと前の今村紫紅の素描も出てまして、日本画家のスケッチってそれぞれ見どころがあっていいですね。そんな感想を持ちました。

【中村学芸員】　　伊東深水、市川市に、正確に言うと２７１点所蔵されているそうなんです。けれども、伊東深水の南方に行ったときのスケッチ自体は、本人は四百数十枚以上描いたというふうに言っていて、恐らく市川市に入っているもの以外にも相当数のものが描かれていて、枚数としては、市川市が群を抜いているんだと思うんですけれども、散らばった数としては、思っている以上にもしかすると残っている数は多いという可能性があります。

【山村委員】　　市川市にこれは寄贈されたんだと思うんですけれど、何か関係があったんですか。

【中村学芸員】　　どうもインドネシアのほうに姉妹都市とか友好都市という形で提携を結んでいる市があるようなんですね。その辺のところを描いているという意味で、言ってしまえばある時期にまとまった数を入れたということのようなんですけれど。

【山村委員】　　買ったんですか。

【中村学芸員】　　そうですね。ただ、そういうような形で、伊東深水自身にすごく何か深い地縁があるとかそういうことではないようなので、正直なところ、市川市もなかなか効果的にこのコレクションをＰＲするというような手段を、今まだ模索しているという段階のようなので、そういった意味でも、今回、非常に協力的に、好意的に見てくださった

というところがあります。

【山村委員】　　市川市は東山魁夷の美術館をたしか持っていますけれども、それとは関係ないんですかね。

【中村学芸員】　　そうですね。どちらかというと、東山魁夷のほうのＰＲに市としては力を入れていて、伊東深水のこのコレクションに関しては、数があるけれども、そんなに持っているという認知が進んでいないという状況のようです。

【鉄矢会長】　　美術館所蔵ってよく聞くんですけれども、市所蔵って、市が所蔵庫だけ持っているんですか。美術館じゃなくて。

【中村学芸員】　　芳澤ガーデンギャラリーという市川市の外郭団体がやっているギャラリーというか美術館があるんですが、市川市のほうで展示するときには基本的にはここを使っているということなんですけれども、作品自体は別の場所で保存管理をしていて、美術品を専門に管理する倉庫で保管されているという状態になっています。

【鉄矢会長】　　ここの倉庫、そんなに多いわけじゃないので、やり方として学ぶことがあるんだったら、そういうやり方なのかなというのも。

【山村委員】　　よくありますね、外の倉庫に預けるって。

【薩摩学芸顧問】　　今は芸大も外に預けてます。辰巳あたり。

【鉄矢会長】　　いっぱいでどうしようもないというときに、こういうのがやはり情報として館長のほうに伝えておかないと。

【薩摩学芸顧問】　　ただ、いわゆるガス消火で、そして温湿度のコントロールができるというと、多分１坪１カ月２万円ぐらいすると思います、フルスペックだと。これが、消火器と、いわゆる常温、常湿といってもがっしりとした建物の中の常温ですから、冬でも１０度、夏でも３０度までいかないぐらいですけれども、それだと１坪8,０００円とか6,０００円ぐらいになると思います。

【鉄矢会長】　　そういう気候のところに建てるといいんでしょうね。そういう気候に近い状況のところに。

【山村委員】　　いや、なかなか、東京じゃ無理……。

【鉄矢会長】　　東京じゃないところ。東京じゃないところの、土地の安いところで、東京の美術館がネットワークを持って、そういうところにベンチャー企業をつくるとか。

【薩摩学芸顧問】　　理想的なのは条件だけで言うと北海道なんですよ。気温と、それから降水量と、それから、あそこは地震が少ないですから。

【山村委員】　　陸路で運べない。

【薩摩学芸顧問】　　そうなんです。

【山村委員】　　長野もいいって言われたんですけれども、でも、なかなか季節によって温度も湿度も違いますから。

【鉄矢会長】　　大変ですね。小金井のこの暑いところで、湿度温度管理を全部するのも。

ほかにご質問、ご感想等ございますでしょうか。

私から、済みません、愛国製茶って狭山なんですか。どちらなんですか。

【中村学芸員】　　会社自体は今、高田馬場にあるそうなんですけれども。

【鉄矢会長】　　全国のお茶を取り扱っているんですか。

【中村学芸員】　　メーンとしてはやはり狭山とか静岡とか、関東エリアのお茶をメーンにしているということです。今の社長さんで４代目だということなんですけれども、会社として登記したのが、ちょうど１９４１年だったということで、もともとやはりお茶問屋としては狭山とか静岡の辺とやりとりをしていたというところで、そこが会社として法人を立ち上げたのが１９４１年になるということですね。愛国とつけたのも時流に乗ったということなんですけれども、そうしたら数年後に日本は負けてしまったという。

【鉄矢会長】　　ほかになければ、次第の３番、意見交換等について入りたいんですけれども、よろしいでしょうか。

委員の皆様から何かございましたら、よろしくお願いします。

【山村委員】　　カフェのほうはどうですか。

【事務局】　　カフェのほうは、展覧会をやっていないときは閑古鳥が鳴いていてちょっと大変です。これから展覧会が始まりましたので、協定どおり連携を結んでいこうかなと思いまして、初日は、中村が行って、カフェのほうでもレクチャーをしますので、トーク＆レクチャーみたいな感じで。あとは、喫茶棟で飲食して、そのレシートを美術館に持ってくると絵はがき１枚進呈。美術館のチケット半券を向こうに持っていくと、今回の展覧会メニューができるそうなので、それが少し安くなるみたいな動きはしようかというふうに思っています。そんな感じです。まだまだこれからもう少し知っていただかないとだめかなという気もします。おいしいのでぜひご利用ください。

【川﨑委員】　　私、展示会中に２回目で行ったんですけれど、そのときは満席で、お昼どき、お友達と予約しておいたのでよかったんですけれど、予約してなかったらちょっと座れなかったかもしれないという感じで、メニューも結構、これ終わっちゃいましたみた

いな感じで、割と人が入っているのかなと思っていたんですけれど。

【事務局】　全く入ってないときもあって、雨の日がねらい目です。うちの美術館と同じで。たまたまそういうときに行ってしまうと、大丈夫かなみたいな感じで。最近、予約ができるので、団体の方が予約して入ったりしていますけれども。そちらも含めて美術館と一緒に認知度がだんだん上がっていってくれればいいかなと思います。食べるものは大変おいしいと評判ですので、ぜひご利用ください。

【上原委員】　すみません、前から気になっていたんですけれど、ここのところ企画で、戦前とか戦中のそういう作品が目に飛び込んでくるんですけれど、それはあえてそういうふうにしているんですか。

【鉄矢会長】　中村研一絡みなのかどうかという。

【中村学芸員】　やはり中村研一という画家が活動していた時期というのをベースにして考えると、戦前、戦中にかけての時期というのが、中村研一自身の画業にとっても重要な時期であったというところから、そこのかかわりから広げていくと、どうしてもこのあたりの時期がポイントになってくるというところではあるんですけれども、ただ、これはあくまでそういった形で、結果としてその時期になっているということなので、変な話ですけれども、意識的にこの時期を選んでいるというよりかは、中村研一から広げていけるところを考えていった結果、この時期になっていったのが、ちょっと続いているというような印象があるかと思います。この時期だけをやっていくということではなくて、今後もいろいろなところに目を向けていく形でやっていきたいと思っています。

【上原委員】　ちょっとわからないんですけれど、１１月から予定されている児島善三郎さんの作品は戦争と関係ないですか。

【鈴木学芸員】　児島善三郎は戦争の絵を描いているわけではないので、また、その時代は特に風景の作品を重視して描いていましたから、今回はそういう風景などの作品を展示……。

【鉄矢会長】　同時代に国分寺に住んでいた。

【鈴木学芸員】　もちろん中村研一が小金井に住んだのは戦後ですけれど、児島に関しては戦前から住んでいましたので、ですので、戦前の作品もありますし、戦後の作品もあるという形になりました。

【山村委員】　何年でしたっけ、国分寺に住み始めたのは。

【鈴木学芸員】　そうですね、今、ちょっと失念しましたが、ただ、戦争を挟んでいま

すから。

【薩摩学芸顧問】　　代々木にいて、国分寺に来て、戦争中は国分寺にいて、最後は荻窪ですね。

【鈴木学芸員】　　最後は井草ですけれど、荻窪ですね。

【薩摩学芸顧問】　　中央線のところを行ったり来たり。中村研一は代々木からちょっと三鷹にいて、で、ここですね。同じようなところを動いているので。

【鉄矢会長】　　上原委員が多分、今まで印象にあったはけの森でこういうのもおもしろいなと思った展覧会、どんなのですか。

【上原委員】　　串田孫一さんの、私は結構本を読んでいたんです。そうしたら詩とか絵もありましたね。意外だったんですよ。ああ、すばらしいなと思って、そのときは感動しました。ここのところ、こういう委員会に入れていただいたので、近場でよく武蔵野市の吉祥寺美術館には通っています。そうしましたら、いつも、ああ、楽しいな、おもしろいなというふうに心が動くんですね。今回も行きましたら、私、６５歳にやっとなれたんです。そうしましたら、シルバーパスって無料で、ほんとうに初めて使えて、もううれしくてうれしくて感激しているんですけれども。絵自体も原画でよかったし、たまたまほんとうに作家もいらして、そのとき日野の女学生が、美術サークルの方が先生に引率されて来ていたんですね。作家の方と立ち話で質疑応答されている場面にばったり会ったんです。私も何だろうと思って聞いていて、それがおもしろくて、ずっと絵から離れていたんですけれども、画材だけはほんとうにたっぷりあるんで、それだけは引っ張り出しました。描いていないんですけれど。そんなふうにすごく自分の中でもやはり感激するものがあったり、原画を見ているときも、くすっと笑ったり、とにかく楽しかったんですよ。ところが、こちらでそういう、私は戦争大嫌いなんです。それを見るって、もう正面にこんな大きなのがぼーんとあったときに、もう入ったとたんにびっくりしてしまいました。今回は、確かに、深水さんのは、直接戦争の画はなかったけれども、意図するところはやはり戦争関係じゃないですか、従軍画家として。だから、どうも私は嫌だなという思いが、ここのところあるんです。だから言いました。

【鉄矢会長】　　こういう委員の意見があるということだけは、お伝えしておかなければいけないなと思っているのと、一方で、私のほうからすると、学芸員が研究者としてこの美術館について何を研究したくなるかという、ここのあるネタが中村研一というのがあって、ここからどう広げていくかというのをそれぞれの学芸員が違うので、ここで学芸員が

かわったときに、この学芸員がこういうふうにいくというのが、多分一番おもしろいところだと思うんですね。学芸員が学芸員らしく自分の研究を進めていって、それをどう見せていくかというところに、今みたいなご意見があって、中村研一の生きていた時代は変えられない。このコレクションも変えられない。その中で、今みたいな意見をこういう中でしゃべれることが、多分運営委員の中でも大事だと思っています。で、２年後になるか３年後になるかわからないですけれど、中村研一の戦争といろいろな関係を１回見た後に、学芸員さんが、そういえばこういうこともできるかなと思うかもしれないですし、これを戦争と思って見ているのか、実際に風景、私なんか風景をよく描いているなというふうにも見ていたので、いろいろな見方があると思います。ただ、上原委員の意見も、これは貴重な意見だと思いますので、学芸員さんによく届けばいいと思います。

そのほか、ご意見ありますか。

【川﨑委員】　私も、展示の感想になってしまうんですけれど、パートごとの最初にあった掛け軸のああいうのとか、すごく変化もあって見やすくていいなと思ったのと、あと、深水さんの作品は風俗を重点に置いているスケッチだったんですけれども、表情が厳しいものが多くて、戦時中の緊張感みたいなものが結構強かったのに対して、２階に上がってきたら、中村研一さんは、直接あれを見たわけではないかもしれないんですけれど、戦争の激しいスケッチを初めて見て、そのギャップにぐっと引き込まれたというか、展示はすごくすばらしかったなという感想です。

雨の日のプレゼントもすごく気持ちがこもっていていいなと思ったので、また次回以降も何か違った形で続いていけたら、結構定着して、また、雨の日だけど行こうって思ってくれる方もふえるんじゃないかなと思いました。

【中村学芸員】　雨の日のプレゼントに関しては、今回初めてやってみるので、やってみたら実際こうだったというふうに見えてくるところもあると思います。まずやってみて反応を見てという感じにはなってしまうんですけれども、今、プレゼントするものとしては、はっきりと出しているわけではないんですが、一応、手ぬぐいを予定しておりまして、ぬれた体を拭いてもらえるとか、そういうような趣旨でお渡しできればと思っています。ただ、数としては無限にお渡しできるわけではないので、今、一応、先着５名様という形で。実際のところこれでどのぐらいの方が反応してくださるかというところとの兼ね合いにはなってしまうかなというふうに思っています。

展示の内容に関しては、中村研一と伊東深水、３歳差なのでほぼ同年代の画家で、ほぼ

同時期ではあるんですけれども、中村研一のほうが南方のほうに行っている時期が１年早いんですね。たった１年の違いなんですけれども、その１年の間に何が起きているかというと、ミッドウェー海戦が起きたりであるとか、深水が南方に行っている最中にアッツ島の玉砕が起きたりという意味では、かなり日本の戦争の状況の中では大きく変わっていく、その節目の時期に、節目の前と後みたいな感じで２人が行っているので、そういうところでもやはり見たものの違いが出てきたりであるとか、あるいは、油絵画家であった中村研一と、割と職人的な歩みを経て日本画家になった伊東深水という、それぞれの歩んできた画家としての道の違いみたいな部分も出てくるので、もうちょっと展示の中でも見られたらというふうに思っています。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

私からですけれども、８月の終わりに宿題、急いで出したい子どもたちが多いような気がするんです、絵描いて。今回見せる絵は、絵を描きたくなる絵だなと思って、素描とか風俗とか、鉛筆と絵具で描けるよというような、何か自信を持てるといいなと思っていて、夏休み何とか何とかってそういう予算が教育委員会からついたりしたらいいですね、と思っただけです。

【中村学芸員】　　夏休み期間の美術館の活動情報というのを、小、中学校にどうやって流していくのかというのが、なかなかやはりこの間でも見えてこないところで、学校に情報を送っても、学校には子どもたちが来ていない状況下で、そういうところが少しここでの具体的な策を見出せずにいるという状況ではあります。特に今回は、ご指摘のあったとおりですけれど、戦争というところにかかわる絵画というのを子どもにどう見せるかという部分もちょっと難しかったというところもあるんですけれども、ただ、夏休み時期には子どもたちとの交流が全くなくなってしまうというのは、これは美術館のやり方としてはやり方を狭めてしまう形になるので、今後、この部分に関してはもうちょっと考えていきたいと思います。

【山村委員】　　夏休みが始まる前の７月の頭とか６月の後半ぐらいに打ち合わせとか、先生の協力を得て配ったりとか、市報に載せるということはやらなかったんですか。

【中村学芸員】　　チラシ類に関しては、もう既に学校のほうにも配っているんですけれども、ここの美術館の立地の状況として、梅雨どきにこの美術館をあけるというのがすごく難しい状況になっているんですね。作品の管理としては、梅雨どきにここの美術館、やはり湿気の対策がすごく難しくて、なかなか気軽にあけた状態にできないというところで、

ここを閉めてしまうと、６、７月の夏休み前に小、中学生が気軽に来るという状況をつくる……。

【山村委員】　　インフォメーション。

【中村学芸員】　　インフォメーションはしています。

【鉄矢会長】　　子ども向けの８月末の宿題サービスを、美術館のことではないかも、教育委員会になるのかわからないですけれど、本来ならこういう風俗のいろいろなものを見て、ああ、こんなふうに絵を描くんだなと、描き方の教室みたいな何か演習して、阿波踊り描かせるとかだったらとってもいい。あとは、わんぱく祭りみたいな、この町の風俗を、子どもの風俗が描けたりするようなのがいい題材になるのかな。やはりなかなか、今、印刷物であったりするんですけれど、鉛筆と絵の具で描いていたというのも、本物を見るというのは、素描を見るって実は機会が少ないように思うんです。そういうのを子どもが見るのって多分楽しいんだと思う。自分の持っているもので見られるというのは。

ぜひ、次年度とか夏休み前に何か。

【中村学芸員】　　そこがいかんせん、全体的に関連企画なんかも、少しやはり対象年齢高めにはなったかなと、結果としてはなってしまったかなというところはあるので、これは今後確かに考えていく必要があるかと。

【鉄矢会長】　　それとあと、ここはずっと中村研一の時代から離れられないんだとすると、この美術館として戦争というものをどういうふうに、展覧会と戦争というのを反戦とか平和とかとつなげるのか、全くつなげないのか、目を背けているだけにはいかないと思うんですね。事実上これがあるものだから。それは、難しいのは重々承知なんですけれど、考えなきゃいけないのかなというところだと思っています。

【山村委員】　　１９４０年代、今から６０年ぐらい前ですか、７０年ぐらい前なのかな、に、南の国のほうで、年表があって地図があって、それでそこをまだ写真とかじゃなくてこうやってスケッチするということが、そういう報告することがすごく重要なことだったんだということを、子どもたちが知るということはいいことだと思うんですけどね。すごくうまいので、しかも写真ではあらわせないような生き生きした感じとか、そういうものの雰囲気が出ているので、そういうものをじかに子どもが、子どもと言ったって小学校の高学年とか中学生なんかが多いんだろうけれども、いい影響を与えると思いますけれどね。

【中村学芸員】　　２校だけではあるんですけれども、この会期中に鑑賞教室に来てくれる小学校もあるので、そういったところでのやりとりをちょっとやってみて、考えてみた

いと思います。

【事務局】　何かいいインフォメーションの方法ないでしょうか。チラシは予算がないので、そんなに学校中にまくほどできないんですね。今、武蔵小金井駅にチラシは置いてあって、すぐにはなくなるんですけれども、果たしてほんとうにその目的で持っていってもらっているかどうかというところがちょっと心配な部分なんですが、あと、武蔵小金井駅と東小金井駅に、７月２４日から２週間駅張りのポスターもしているんですけれども、例えば、今、山村委員の言ったように、お子さんに見てもらいたいなと思うんですけれども、なかなか夏にお子さん向けの展覧会をしても、実は余り入りがよくないという部分があって、特に子ども向けではないけれども、いいスケッチを見てほしいということが、うまくちょっとアピールできればいいなと思っているんですけれども。

【小林委員】　学校だったら、前もお話ししたと思うんですけれど、校長会に来ていただいて、そこで説明をしていただくということと、子ども向けのチラシが何枚かあれば教室に１枚張ってもらうとかすれば枚数もそんなに。

【中村学芸員】　各クラスぐらいだったら大丈夫ですか。

【鉄矢会長】　そうすれば、関心のある子なんかは。

【中村学芸員】　そうですね。

【鉄矢会長】　保護者会の前にそれを張っておけば、来た保護者が見るかもしれない。そういう方法もあるかもしれません。

【中村学芸員】　はい。ちょっとそれ、次回から考えてみます。

【鉄矢会長】　ほかにご意見、ありますでしょうか。

中村（研一）通信じゃないですけれど、せっかく来てもらって顔がつながった人が、こういうところに顔があって、今回の企画展、こんな工夫したんだよと見に来てねという壁新聞が学校に張られたら、ああ、この人、会った人だよと言ってくれれば、大量にまくんじゃなくて、コピーＡ３とかいうんだったら、学校に張ってもらえるんじゃないですかね。何かやはり語りかけ口調が、これだと子どもには語りかけないので、でもこれを張った周りに何かそういう学芸員という仕事はこういうものをこんなふうな気持ちで企画してやったけど、伝わったかどうだか見に来て感想を教えてねぐらいだったら、何か行ってみたい気がすると思うので。アイデアです。

意見交換、いかがでしょうか。尽きないようですけれど、ここで締めます。

では、その他、次回日程調整についてですが、まず、会議録の校正について、資料、行

ってますので、これの説明をお願いします。というか、まずこっちの日程ですね。これの締め切り等、お願いします。

【事務局】　　では、事務局のほうから毎回お願いしていますことですが、お手元のほうに前回、平成２９年度の第１回運営協議会の会議録の案をお配りしています。内容をご確認いただいて、もし修正などございます場合は、９月１日の金曜日までにコミュニティ文化課にご連絡いただければと思います。もし修正ない場合は、ご連絡いただく必要はないです。この会議録は９月１日以降、会長の一任扱いで確定して、市のホームページに掲載させていただきます。会議録については以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。では、会議録の確認については今のご説明のとおりよろしくお願いします。

　では、運営協議会の日程について、どなたかご意見はございますでしょうか。

【鈴木委員（館長）】　　昨年は１１月の初旬に開催しておりますし、そのころには次の展覧会も始まっているタイミングとなります。１１月７日、火曜日、または１４日の火曜日、はいかがでしょうか？

～調整～

【鉄矢会長】　　１１月７日、１８時半からということでよろしくお願いします。

　ほかになければ、以上ではけの森美術館運営協議会を終了します。お疲れさまでした。

――　了　――